

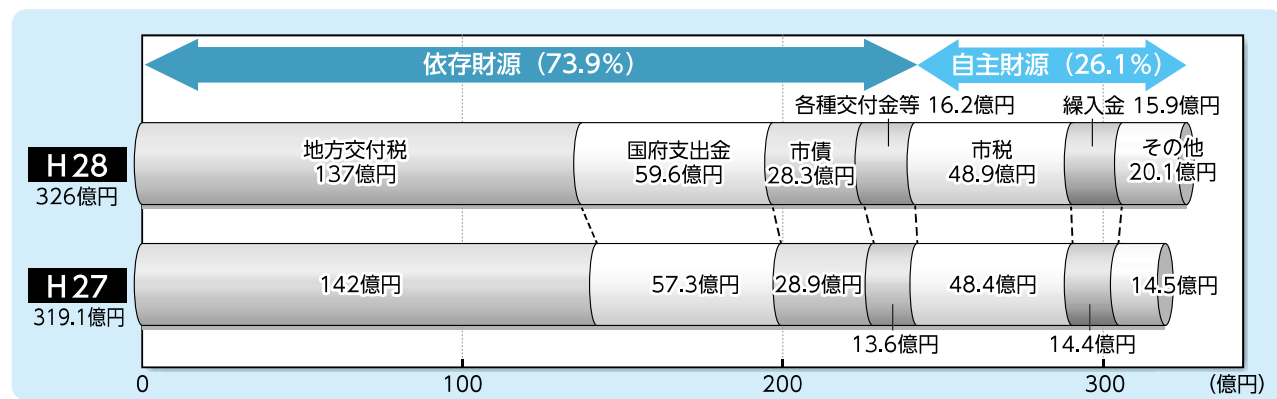
グラフでみる ぎょうたんごの予算

参考

ご覧いただく際の参考にしてください。
 ●市の予算は、『年度』という期間を使っています。
 平成27年度とは、平成27年4月1日から平成28年3月31日までをいいます。
 平成28年度とは、平成28年4月1日から平成29年3月31日までをいいます。
 ●京丹後市の人口 5万7,287人
 (平成28年3月31日現在の住民基本台帳人口)
 市の借金や貯金の、市民1人あたりの金額を計算する基礎に使用しました。

平成28年度の収入の内訳

市の収入で一番金額の多いものは、国から配分される地方交付税の137億円で、次いで国府支出金59.6億円、市税48.9億円の順となっています。



市税の状況

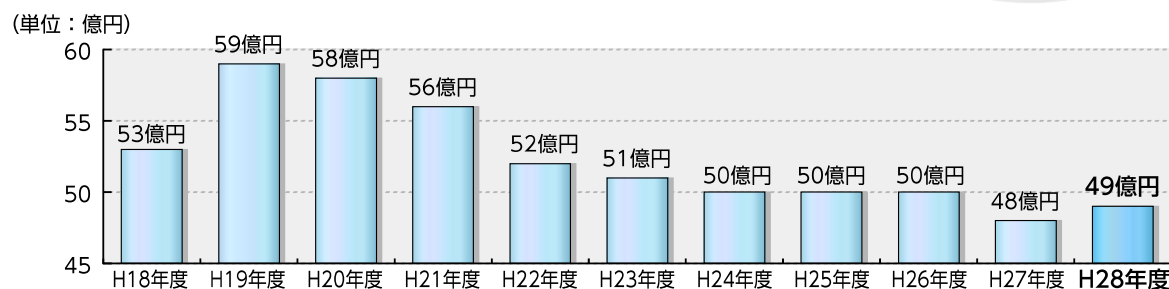
<市税の内訳>

京丹後市の市税は、**市民税**、**固定資産税**、**軽自動車税**、**市たばこ税**、**入湯税**、**鉦産税**などがあります。

市税の内訳をみると、固定資産税が22.8億円で市税の約5割近くを占めており、次いで個人市民税が18.1億円、市たばこ税が3.3億円となっています。

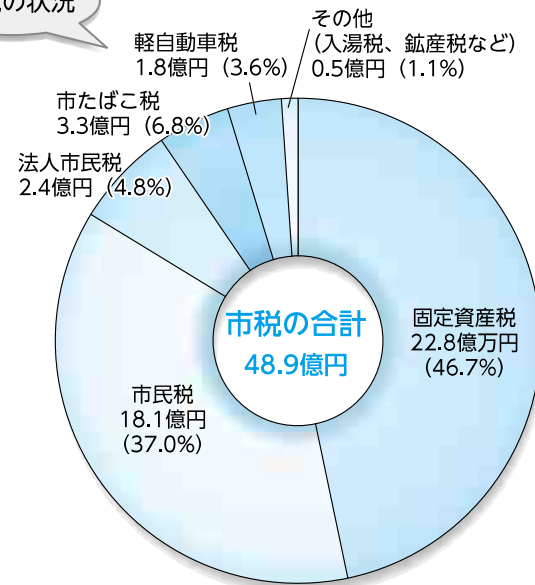
<市税の推移>

平成19年度の税源移譲で所得税（国税）が減少し個人市民税（地方税）が増加したことにより、一時的に市税収入は伸びましたが、近年では、年々減少傾向にあります。平成28年度については、法人市民税と税率が変更となった軽自動車税の増収を見込み、市税全体としては0.9%の微増となっています。



(注) 平成26年度以前は決算額、平成27年度および平成28年度は予算計上額です。

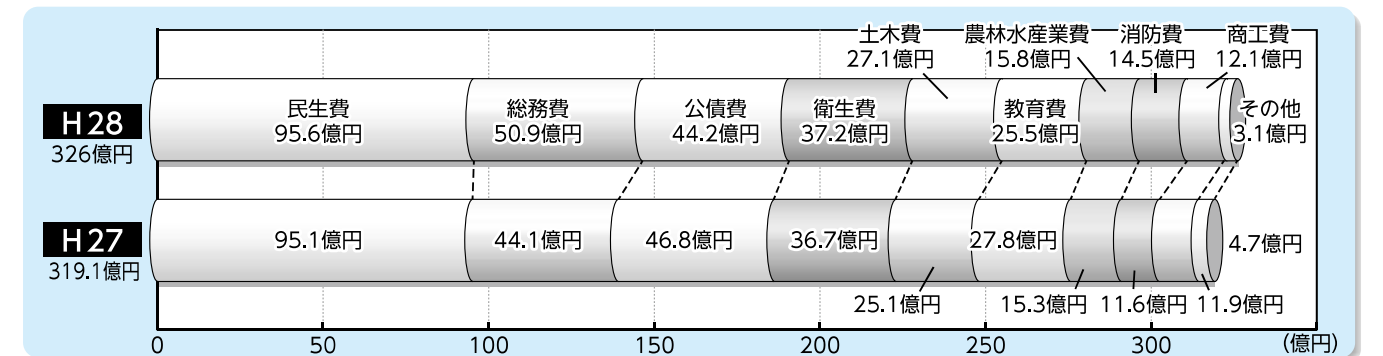
市税の状況



平成28年度の支出の内訳

平成27年度と平成28年度の一般会計予算を、その目的ごとにグラフで表しました。平成28年度の予算でみると**民生費**（老人福祉、児童福祉など）が95.6億円と最も多く、次いで**総務費**（地域振興、情報化推進など）の50.9億円、**公債費**（借金の返済金など）の44.2億円、**衛生費**（医療対策、環境保全など）の37.1億円、**土木費**（道路橋梁、都市計画など）の27.5億円という順になっています。

平成27年度と比較すると、一般会計全体で6.9億円増加しています。主な要因として、総務費で6.8億円、消防費で2.9億円増加しています。総務費では、再編交付金活用事業、ふるさと応援寄附金推進事業、市長・市議会議員選挙執行経費、ふるさと応援基金積立金などが増加、消防費では、弥栄消防ヘリポート（仮称）整備事業、救助工作車の更新経費などが増加したためです。



◆性質別支出

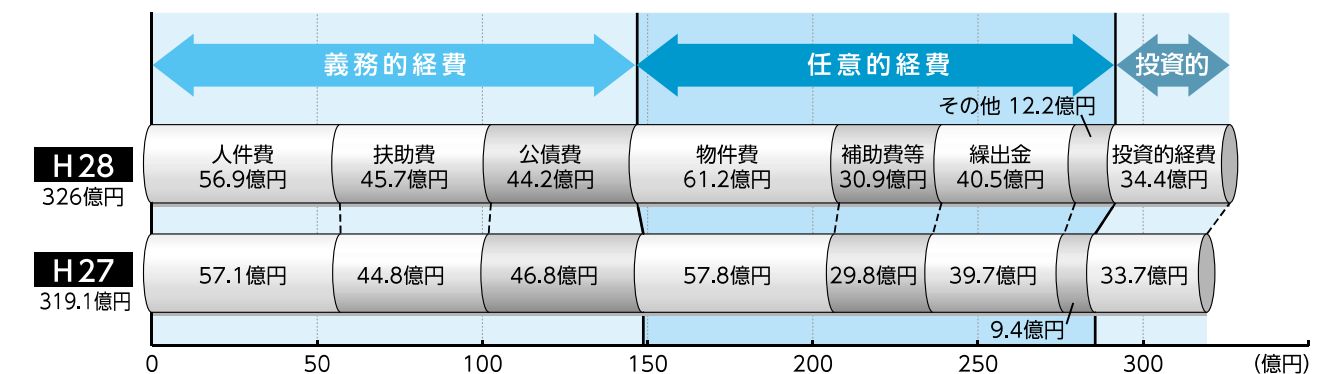
平成28年度の一般会計予算をその性質ごとにグラフにしました。

人件費（職員の給料など）、**公債費**（借金の返済金）のように性質的な見方で区分した予算を「**性質別予算**」といい、上記の目的別予算とともによく利用されます。

平成27年度の予算でみると、**物件費**（臨時職員の賃金、光熱水費、委託料など）が61.2億円と最も多く、次いで**人件費**56.9億円、**扶助費**45.7億円という順になっています。

人件費、公債費および扶助費（生活保護費、医療給付費など）は、必ず支払わなければならない経費であり、**義務的経費**といいます。この義務的経費の割合が高くなると、市民の皆さんへの助成金や道路の改良工事などを縮小しなくてはならないことになります。

また、収入（特に税金など）が減ると、**任意的経費**（補助金、施設の管理費など）や**投資的経費**（工事請負費や用地購入費、災害復旧費など）をより多く削減する必要があり、市が独自に事業を実施したくてもできない、いわゆる「**財政の硬直化**」が進むことになります。



■義務的経費…給与（人件費）、借金の返済金（公債費）、生活保護費（扶助費）など、法令などにより支出が義務づけられている経費です。

■任意的経費…市の判断により任意に支出できる経費。各種団体への補助金や施設の管理経費などがあります。

■投資的経費…道路や学校、橋などの社会資本の整備にあたる経費で、工事請負費や用地購入費、災害復旧費などがあります。